



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2023年09月04日 第1132号「週刊五十嵐レポート」

入りを計り出るを制す

「コクヨのぶんぐ」(Instagram公式アカウント)のフォロワーを対象に行ったアンケートによると、仕事で何らかの「探し物」に費やしている時間は一日平均「13.5分」。年間に換算すると「54時間」という結果(2022年1月)。4年前の2018年にも、ビジネスパーソンが書類を探す時間の調査を行っており、その時の結果は一日平均「20分」年間換算で「80時間」。コロナ禍やデジタル化によって紙資料の量そのものが減ったため、それでも結構な時間を費やしていることに変わりはない。

物を探すという行為は無駄な時間と労力が使われる。知らず知らずのうちに損失が出ていることに社長は気づかないでいる。(営業で言うと、移動時間。移動時間は必要だが、損失のみ生まれる。移動時間をいかに短縮するかが課題になる)

まずやるべきことは、「整理整頓」。「整理」とは、「いる物」と「いない物」を分け、いない物は捨てること。「整頓」とは必要な物を必要な時に取り出せるようにすること。日ごろの整理と整頓を心掛け、無駄な時間を減らし、業務効率が上がり、精神的にも余裕が生まれる。

ある会社の話。競争相手も少なく、価格設定も自社で決められる。顧客は売価で買ってくれる。十分な粗利益が確保できる。異業種がうらやむほど。しかし、決算を締めてみると、赤字ではないが、思ったほど経常利益が出ていない。よくよく聞いてみると、倉庫内に問題があった。顧客から注文された商品を探すのに手間がかかっていた。どこに何があるのかわからなかった。配送して顧客に届いてみると、違った商品が入っていたり、付属商品が配送されていなかったり、二度手間三度手間が頻繁に起こっていた。粗利益を生まない作業をスタッフ全員で行っていた。売上を上げれば上げるほど、時間と経費が出ていった(スタッフにとって探している時間や二度手間の時間は給料に反映される。会社としては余計な経費が増える)。

「入りを計り、出るを制す」。日本古来からいわれる言葉。この会社、「倉庫」に儲けの源泉がある。ここに気づかないと会社は危うい。

ちょっと
気になる出来事

8月24日付日経新聞、「訪問介護でも老々拡大」という記事。

ヘルパーが高齢者宅を訪れる訪問介護の事業が厳しい。利用者が10年で2割増えたのに対し、訪問員の38%は60歳以上、7人に1人は70歳以上。

介護労働安定センターが全国の介護事業所を対象にして22年度の実態調査では、訪問介護員の平均年齢は54.7歳。65歳以上は26.3%、70歳以上13.5%に達する。背景は人材難。21年10月時点での訪問介護員は51万人強、52万人強だった18年より減少。ホームヘルパーの22年度の有効求人倍率は過去最高の15.53倍。

コストコ幕張に行くと、パート・アルバイトの高齢者が目立つ。元気に明るく働いている。当然、若い人もいるが、60歳以上(70歳代も)の人材を上手く活用している。

心身ともに元気な高齢者は人材である。フルではなく、部分、部分で活躍する場を提供できる。「老々介護」というと悲しい響きがあるが、元気な人が介護を要する人をケアすると考えればいいのではないか。プラスに捉えたい。



一口メモ
知識

泰平は傾く

平らかなるものにしてかたむかざるはなく、往(ゆ)くものにして復(かえ)らざるはなし。くるしみて貞(てい)にすればとがなし。うれうるなかれ。それまことあり。

平らかなものは必ず傾き、去ったはずの閉塞(へいそく)の時代は必ず復(かえ)ってくる。

泰平の時とはかく安易に考え、安泰が永遠に続くという錯覚に陥りやすい。泰平の世を傾かせるのは、そういう怠りと油断、危機管理能力の欠如である。

時は生々流転して、一時として変わらないものはない。盤石の安泰はなく、人の心も、世の中も時とともに変わっていく。しかし、日々緊張感をもって労を尽くせば、安泰を長く保てる。

「うれうるなかれ。それまことあり」とは、泰平はいずれ傾くとはいえ、不用意に不安や憂いを抱く必要はなく、健全な危機感を持てばいい、という教えである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

